月報	日本キリスト改革派 横浜中央教会	3月号 2011年3月11日
----	---------------------	-------------------

3. 11が作った新しい状況

立石章三

ちょうど1年前、私たちが想像もしなかった大震災が起きました。その規模は岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmの広範囲に及び、地震によって起こった津波は波高10mから最大40mにも上りました。震災による死者・行方不明者は約2万人、建築物の全壊・半壊は合わせて38万戸以上、ピーク時の避難者は40万人以上、漁船は2万2000隻が失われ、被害額の総計は16~25兆円と試算されているそうです。これに加えて福島原子力発電所の崩壊と放射能の漏出。ロシアのチェルノブイリ原子力発電所の事故（1986年）の教訓は生かされませんでした。実際に何が起こったのか、これからどうなるのか、詳細な事実は国民に何も知らされないまま1年が過ぎてしまいました。

しかし過去の分析は今回のテーマではありません。私はこの時から始まったボランティアたちの活動、特に東仙台教会を中心とした活動に目を向けたいと思います。すでに「支援ニュース」で報道済みですが、東仙台教会を拠点にしたボランティア活動の中心は、現在は東名地区でのヘドロかき出し作業ではなく、地域の子どもたちを対象にした放課後学習支援活動がメインとなっています。「さくらハウス」と名付けた家を2年間借りて長期の支援活動が行われています。今までキリスト教が入り込めなかった地域にボランティアたちが入り、地域の信用を得ることができ、目覚ましい活動がなされています。今年のクリスマスには野蒜小学校を会場に、合計171名（地域の子ども・大人は138名）が参加するクリスマス会ができました。年末に行われた一泊二日のキャンプには野蒜小学校の生徒が30名参加しました。今年1月30日に行われたスケート場への「にじいろ遠足」には小学生が46名参加しました。

この面だけを取り上げて考えてみますと、大きな不幸な出来事の中から、何か芽生えようとしているのを感じます。聖書の摂理の教理は、その事件から相当たってから、過去を振り返って見た時に、どんな時にも、どんな状況下に置かれても、そこに神の大きな憐れみの御手を感じるのです。そこに神の歴史が見えて来るのです。震災後まだ1年の時点で何かを結論付けることはできませんが、あの事件が生み出そうとしているものがあるのではないのでしょうか、まだ明確な形になってはいないかもしれませんが、何か、神様の大きな御手が見えてくるのではないかと。そんな予感がします。

東京タワーほどの幸せ

K. K

先日「3丁目の夕日」という映画を見て来ました。昭和39年、1964年の東京オリンピックの頃の話です。戦後19年、カラーテレビが出始め高度成長期に向かって行く時代の、下町の人々の日々の暮らしが涙と笑いと共に展開されます。見なくともなんとなく想像できる映画なのですが、宣伝文句に「どんなに時代が変わっても夢があるから前を向ける」とあります。悩み苦しきも今と同じようにあった筈ですが、それでも今より人間らしい生活が営まれていたような気がします。将来に対して何となく不安を感じて生きる今の時代、どうしてこんな風になってしまったのでしょうか。人々はより良い生活を目指して頑張ってきた筈なのに、だからこそのような映画が好まれるのでしょうか。

現代を象徴するようなスカイツリーがまもなく開業されます。スマートで空高く立つスカイツリーは人々の心を魅了するでしょう。でも私は映画に映しだされる東京タワーを見ていたら、なんだかとても東京タワーが愛しくなったのです。スカイツリーより小さくスマートでもないけれどすごく頑張っている感じなのです。誇り高く、堂々と見えるのです。それに比べスカイツリーはクールであまりにも高く周りからかけ離れ孤独にみえます。

そんなに高くなくてもいい、東京タワーほどの幸せが、人間にとって丁度いい幸せなのかも知れません。神様もそうお思いなっている気がするのですが、どうでしょう。映画を見ながらこんな事を考えました。

私ที่บ้านにいる時間が長いせいか毎日のように地震速報のニュースに接します。首都圏にも大地震が起こり得るという話も聞きます。地震は人間には防げませんが原発の事故は防げます。こんなに地震の多い国に原子力発電は向いてないともはや悟る時です。頻繁にある地震の度に原発の心配をしなければいけない国っておかしいです。

次世代が「東京タワーほどの幸せ」を得るためにはどうしても健康な大地が必要なのです。神様はあの大きな災害から私達に何を伝えようとしているのでしょうか。

私達はわかっているような気になっていませんか。(私だけかも知れませんが)

その声は小さく簡単には聞こえません。でも求め続けなければ聞こえません。

春になったら神様からきれいな花がたくさん届くでしょう。

神様はその一つ一つに、愛をたくさん込めて届けて下さるでしょう。